

令和5年度 島根県立石見高等看護学院 学校関係者評価委員会議事録

1. 開催日時：2023年9月21日（木）
2. 開催場所：島根県立石見高等看護学院 会議室
3. 出席者

	氏名	所属	職名	備考
学 外 委 員	梶浦 靖二	益田保健所	所長	
	檜谷 みどり	益田赤十字病院	看護部長	
	熊谷 武美	益田地域医療センター 医師会病院	看護部長	
	中嶋 眞由美	松ヶ丘病院	看護部長	
	細川 真紀	島根県立松江高等看護学院	副学院長	欠席
	寺戸 恵子	石見高等看護学院同窓会	会長	
学 内 委 員	狩野 卓夫	石見高等看護学院	学院長	
	齋藤 晃大	々	副学院長	
	吉田 真奈美	々	々	
	三浦 陽子	々	教務主任	
	山田 奈穂子	々	主任看護教員	
	藤田 野乃	々	々	
	室岡 裕子	々	々	欠席
	青木 美香	々	々	
	河上 葉子	々	看護教員	

4. 会議次第
 - 1) 委員長あいさつ
 - 2) 評価委員の自己紹介
 - 3) 出席教職員の紹介

- 4) 学校関係者評価委員会の位置付けの説明
- 5) 学院の概要・教育活動等について
- 6) 評価の実施・結果について
- 7) 新型コロナウイルス感染症の対応について
- 8) 全体を終えての質疑応答および意見交換
- 9) 今後の予定について

5. 協議内容

1) 委員長より挨拶

令和 5 年度の学校関係者評価委員会の開催にあたり、役員の就任を快くお引き受けいただきありがとうございます。今年度は 4 名の新役員の方にご参加いただき、2 名は引き続き参加頂いた。ご忌憚のない意見を賜りますようお願い申し上げる。

学校関係者評価委員会は、平成 27 年度に要綱を制定してから 8 回目の開催となる。評価頂く過程を通じて、学院とかかわりのある関係機関の皆様は学院の教育活動へのご理解、ご協力を頂き、さらなる魅力ある学院づくりに取り組んでまいりたい。

2) 評価委員の自己紹介

それぞれの委員が学院との関係性を踏まえながら自己紹介された。

3) 出席職員の紹介

それぞれの職員が役割や担当を踏まえながら自己紹介した。

4) 学校関係者評価委員会の位置付けについて

学院より、学校評価の流れについて資料に基づき説明した。

5) 学院の概要・教育活動等について

- (1) 学院より、学院の概要、重点目標および医師会中長期計画について資料に基づき説明した。
- (2) 学院より、教務部目標、教育計画について年報・資料に基づき説明した。

6) 令和 4 年度の評価の実施・結果について

- (1) 学院より、評価委員の活動および自己点検・自己評価の結果について資料に基づき説明した。
- (2) 学院より、「学生による学校評価アンケート」「学生による授業アンケート」について資料に基づき説明した。
- (3) 学院より「保護者アンケート」について資料に基づき説明した。
- (4) 学院より、「入学者アンケート」、「卒業前アンケート」について資料に基づき説明した。

7) 新型コロナウイルス感染症の対応について

学院より、新型コロナウイルス感染をめぐる動きと学院の対応について資料に基づき説明した。

8) 質疑応答・意見交換

学外委員	非常に評価が良い。感心している。外部講師として授業を担当しているが、自分以外の授業での学生の様子を見たいと感じる。
学院	授業をしていてもこれでいいのかと感ずることがある。
学院	学生の印象はどうか。
学外委員	若いのでこんな感じかなと思うところもある。以前准看学校で授業を担当したこともあるが、准看の学生は社会人経験があったり年齢層が様々で、意識が高い傾向にある。 学生が興味を持てる授業になるようにしたいが、国家試験もあり粛々とテキストを進めていく内容になってしまう。今年度の講義を振り返ってブラッシュアップし、自ら学びを深められるような内容にしていきたいという思いもある。
学外委員	評価点とは異なるが、電子カルテのキーボード入力に時間がかかる傾向にあることが気になっている。実習記録や課題で PC を操作することもあると思うが、PC 操作の強化についてはどのような取り組みをしているか？
学院	情報科学の授業で Word、Excel 等のソフトの使い方やキーボード操作の基礎は学習している。授業や実習の課題レポートも手書きではなく PC 入力で提出している。当学院だけではなく、キーボード操作に苦手意識のある若者が増えているとのことで、他校では、スマホのフリック入力でレポートを作成して送付してくる場合もあるとのこと。 実習記録に関しては、セキュリティ（情報管理）の問題が生じるため PC での記載はさせていない。他校も同じ傾向。キーボード入力に関しては、キーボード操作は授業で習っていても日常的に使用する機会が少なく、強化できるような取り組みを検討したい。
学外委員	新採用者の傾向として、アセスメント能力が未熟で記録に時間がかかっているところも見受けられる。近年書類作成業務が増えており、時間のかかる要因となっている。 精神面での弱さも感じるところがある。学生時代に精神的な面で躓きがあったり、気になると感じる学生が現場に出てやっぱりうまくいかないということがあるか。
学院	病院からの情報提供のなかで、学生時代に何らかの躓きがあった学生の名前が挙がることが多い傾向にある。
学外委員	コロナ禍でもあり、新卒者の成長に合わせて進度を遅くしているがそれでも毎年 1・2 名は精神的に落ち込んでしまう。 実習の中で落ち込むことがあっても、次につなげていくような力をつけられるようになってほしい。先生方もそのような場面ではしっかりフォローされていると思うが。
学院	精神面のフォローは 1 対 1 の面接の機会もクラス担当とチューターそれぞれに設けている。学校生活では学年担当、チューター教員どちらでも相談できる体制をとっており、実習ではさらにその時の実習担当教員も必要に応じて面談をして支えるなどの支援はしている。
学外委員	病院も含め、学院の PR には SNS での情報発信が欠かせなくなっている。その中で重要なことは、定期的に更新されていることであり、年報に掲載されているブログの内容を楽しく読ませてもらった。
学外委員	1 年に 1 度は学院に訪問している。就職している卒業生の在学時の状況を聞

	<p>き、指導するうえで役立てている。</p> <p>年報がきちんとまとめられており、すごいなと思っている。</p> <p>学科のところが低いのはなぜか？</p>
学院	<p>4点台なので大きな問題ではないととらえているが、令和4年度に関して考えると、新旧カリキュラムが混在している状況であり、授業や実習をしながら新設の科目の準備をするという状況になっていたためではないかと思われる。ただ、現在のところ大きな問題として改善すべき事柄はないと考えている。</p>
学外委員	<p>実習で関わる学生はわずかだが、バイタルサイン測定の技術が未熟であると感じる場面がある。</p> <p>在宅で様々な療養者の状況がある中で、マンシットを巻く位置、締める強さ、服の上から聴診しているなど基本的な技術が身につけているのかと疑問に感じることがある。</p>
学院	<p>血圧測定に関しては、1年次の間に100回以上の測定を課している。また、基礎実習前に技術試験を行い、一定水準まで到達した状態で実習に臨んでおり、その時点では到達度に問題はない。しかし、臨床でできなくなるということがどこに問題点があるかは考えないといけない。</p> <p>現代の若者の特徴として人の体に触れることに対する恐怖心は強まっていると感じる。真面目に練習しているし、技術のチェックもしているが、緊張の感じ方も変わってきているのではないか。</p>
学院	<p>場面設定をして状況に応じて測定する演習もしており、今後も継続して取り組んでいきたい。</p>
学院	<p>近年、学校検診の聴診でも児童・生徒が脱衣して聴診をすることが少なくなっている。経験として肌を露出することも、露出させることにもためらいが強くなっているのではないか。しかし、臨床で必要な技術として学生たちに伝えていく必要があるのでは。</p>
学外委員	<p>3年間看護の学習をして、急性期病院が自分に向いているかということを考える機会はあるか。いったん就職して、急性期で働くことが難しいと感じ進路変更することも良いが、外から見ると遠回りのように感じることもある。</p> <p>親からの勧めや、周りの目を気にすることもあるかもしれないが、急性期病院があっっているかどうかの気づきができるようなしかけや、自分に合った就労場所が選択できるような働きかけができないか。</p>
学院	<p>2年次の進学ガイダンスで病院をどのように選んだらいいか、自分に合った病院はどこだろうと考える機会は設けている。</p>
学外委員	<p>新採用者は特に、看護技術ができて一人前と思う傾向がある。同級生が自分より技術を経験できていたら焦る気持ちがあったり、みんなに置いて行かれるという気持ちがあっって急性期を選ぶこともあるのでは。</p> <p>看護師の多様性、急性期以外でも活躍している看護師の姿も見られる機会があるとよいのでは。</p>
学院	<p>地域推薦での入学生に対して1年に1回交流会がある。</p> <p>地域に帰って看護師になるということを意識づける目的で市町村が企画し、首長や地域の病院関係者が参加する。</p> <p>参加した学生は、看護師に生の声を聴けて良かったという感想も多い。このような現場から直接学生に伝えられる機会を活用し、どこの病院に就職するかだけでなく、どのような看護師を目指してほしいかなどを伝えてほしい。</p>

学外委員	学生と話すときに、看護師として働くために、まずは人間関係の構築が大切と伝えている。
学外委員	施設柄、様々な機能を持った部署に新採用が配属されているが、今いる部署で学べることをしっかり学ぶように伝えている。 また、人間関係の構築が重要だが、どこに行っても完璧な人だけが集まっているところはなく、自分と合わない人もいる中で、気持ちをコントロールしながら働けるようになってほしいと考えている。

9) 今後の予定について

事務局より評価シートの送付の件と、評価の提出期限について説明した。また、本委員会の協議結果を外部に公表するにあたり、氏名、所属を公表する件について再度説明し、了承を得た。